
俺の人生

データロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の人生

【Nコード】

N0131I

【作者名】

デエーターウ

【あらすじ】

人は生まれていろいろな人生を歩んで行きまたいろいろな事を学び成長して段々大人の階段を昇って行く波瀾万丈の物語です。

乗り越えた壁

俺は生まれて三十五年になりました。

今、ふと夜になると今までの事を思い出します。

親父は酒乱でいつも母親の事を殴ったり、蹴ったり、酷い時は母親の髪の毛をライターで燃やしたりとにかく酷い日々だった。

その度に母親は兄を連れて家を飛び出し教会や知り合いのおばさんの家に逃げたりして家にあまり母親がいた記憶が無かった。

だからいつも俺は親父と一緒に母親がいなくなると親父によく殴られ、一番記憶に残っているのは手と足をロープで縛られ、五階ぐらいの高さから吊下げられたことは今でも忘れることは無い。

そんな親父も俺が五才の時に、酒を飲んでいて窓からおちて亡くなった。

母親と兄と俺は近くの教会に逃げていて、朝一人で家に帰ってみたら外に救急車や近所の人達がいつぱいいて気になって覗いて見たら血だらけになって倒れている親父を見て泣くことすらなくその場を去った。

今思うとあの時の気持ちがかんぱく思い出せない。

小さいながらもホツとしたような、そんな感じがあつたのかなあと思う。

それから兄と俺は養護施設に入ったり、母親と暮らしたり、家出では母親をよく困らせ、怒られていました。あげくのはてには母親の財布からお金を盗んだり、駅に置いてある自転車を盗んだりしては、警察の厄介になった事も何回もあつた。そんなことを繰り返しているうちに兄が浜松にある教護院に入り、それでも俺は悪い事を止めずにやっていた。小学校五年生の時、とうとう俺まで教護院に入る事になり、母親に連れられ浜松に行くことになった。

今まで入った施設と変わらないと思ひながら園内に入った。

その園長と話しをして担当の先生が来て寮を案内してくれた。

そこには六つの寮があり、そのうち四つが男の寮で、残りの二つは女子寮だった。

どの寮も静岡県内にある川の名前を使っている。俺の寮は大井寮だった。

兄は安倍寮にいて少し離れていて話すことは出来なかった。

その教護院生活は午前中は勉強をして、午後は畑や草刈りなどしてそれが終わると夏は水泳をしたり冬はマラソンをさせられたりしていた。

寮内ではイジメがたえなく口の中に将棋の駒や電球を入れられ、殴られたりして新しく入って来た人達は新人イジメをされていた。俺は兄が他の寮にいたのでそこまではされなかったけど多少のイジメはあった。

そんなことがありながら一日、一日過ぎていき、小学校五年生のクリスマスイブの日にいきなり園長先生に呼ばれ、園長室に行くと言いがいて泣いている姿が見えた。園長先生の口から母親が二日前に亡くなり今日の朝亡くなっていてる所を大家さんに発見された事を聞かされ涙が溢れて止まらなかった事が今でも忘れない。今でも亡くなったあの母親の死に顔は三十五年たった今でも忘れられない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0131i/>

俺の人生

2010年11月17日05時06分発行